

# 道徳科の学習評価に関する基本的な考え方



道徳性の評価の基盤には、教員と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要です。そして、道徳性の評価は児童生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すべきです。

- (1) 児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては、育むべき資質・能力を観点別に分節し、学習状況を分析的に捉えることは妥当ではないこと。
- (2) 学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しをもって振り返る場面を適切に設定しつつ見取ることが求められること。
- (3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと。
- (4) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- (5) 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが求められること。



(学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について【平成28年7月29日】文部科学省通知より作成)



## 評価の具体例 (一枚ポートフォリオ評価)

このシートは、道徳教育総合推進サイト「モラルBOX」よりダウンロードできます。

<p>&lt;学習前4月25日&gt;</p> <p>「相手の立場に立って、考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか、思いつくだけ書いてみましょう。</p> <p>・ぼくは、…… ②</p>	<p>&lt;学習後5月31日&gt;</p> <p>「相手の立場に立って、考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか、思いつくだけ書いてみましょう。</p> <p>・授業を終えて、ぼくは… ⑥</p>	<p>振り返りシート</p> <p>&lt;タイトル&gt; ① 相手の立場に立って、考えたり行動したりすること</p>
<p>〇学習前・学習後に書いた文章を比べて、思ったことや感じたことを書いてみましょう。 最初の頃は、相手の立場に立つという……</p> <p><b>表</b> ⑦</p>		<p>おうちの人のメッセージ ⑧</p>
<p>5/2 [今日の学びのタイトル] 手品師 ③</p> <p>〇今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。 自分の夢よりも少年との約束を守った手品師の優しい心が心に残った。</p> <p><b>裏</b></p>	<p>5/9 [今日の学びのタイトル] おばあちゃんの指定席 ④</p> <p>〇今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。 随分と私は悩んだが、けがをした人に席を譲ってよかったと思う。まずは、目の前の人を思いやるのが大切と知った。</p>	<p>5/23 [今日の学びのタイトル] モントゴメリーのバス ⑤</p> <p>〇今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。 キング牧師のように、人のために力を尽くそうとする強い気持ちが大切であることを学んだ。</p>

(「平成27年度 愛知県総合教育センター研究紀要 第105集 小中学校における多様な評価手法に関する研究(道徳)」より作成)

<テーマの設定>  
道徳授業の数時間を通しての主題を決定(①)

### 振り返りシートの活用

- ◆ 表面は、学級活動等の時間を活用して、学習前後の考えや思いを記入(前…② 後…⑥⑦⑧)
- ◆ 裏面は、授業後、学んだことを1時間ごとに記入(③④⑤)

### <評価と授業改善>

- ◆ 記述を基に、児童生徒の成長の様子を別シートに記録  
→蓄積した記録を、大きくくりなまとめ、指導要録に記載
- ◆ 記述内容から、発問や指導展開等についての改善点を検討

# 「特別の教科 道徳」の実施を見据えた道徳教育の充実

## 道徳の時間の現状

### 指導方法

- ◆ 「導入・展開・終末」の3段階で構成された指導過程により、一定水準の授業を行ってきた。
- ◆ 単なる生活経験の話合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われる例が多い。
- ◆ 他教科に比べて、指導の内容が軽んじられている。

(「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について【平成28年7月22日】道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告より作成)

### 評価

- ◆ 道徳の時間における児童生徒に関する評価についての実践や研究が各学校等において組織的・計画的に進められてこなかった。

### 教科化

- ◆ 答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換
- ◆ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の充実と授業改善  
(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編より)

### 愛知県道徳教育推進会議の協議

教科化される道徳の授業において、どのような学習を進め、児童生徒の何を見取って、どう評価していくのが漠然としている状況では、児童生徒のよさはなかなか評価されず、成長実感につながっていかない。そこで、愛知県道徳教育推進会議では、「特別の教科 道徳」の実施を見据え、児童生徒のよさを伸ばし、指導方法の工夫を進めるためには、評価の在り方の研究を進めることが、不可欠であると考えた。

### 愛知県道徳教育推進会議からの提言

※詳細は次ページを御確認ください。

- 指導のねらいを明確にし、質の高い多様な指導方法を工夫することにより、授業改善に取り組みます。
- 学習活動における児童生徒の具体的な取組の記録を蓄積し、その成長の様子を一定のまとまりの中で見取ります。
- 児童生徒がその成長を実感し、よさを伸ばそうとする評価を目指します。

愛知県道徳教育推進会議・愛知県教育委員会



# 子どもを捉え、よさを伸ばす指導と評価の在り方

＜道徳的価値の自覚を深めるための授業作り＞

- ◆ 主人公の心情や考えが大きく変化する場面を中心場面と捉え、効果的な発問作りに主眼をおいて資料の分析を行っています。
- ◆ 授業で使う場面絵や挿絵、発問短冊、板書構成等を一緒に作り、共有するとともに、授業の流れや発問を吟味しています。

## 明確な指導観を持つ



春日井市立坂下小学校の実践

\*\*\*\*\*

＜ポイント＞

- 児童生徒の実態を把握し、ねらいとする道徳的価値についての明確な考えを持ち、教材研究を進めます。
- 教材をどのように活用し、どのような方法で学習を進めるのかを明らかにし、学年や学校で成果を共有します。

- 評価は、児童生徒にとっては、自らの成長を実感し、意欲の向上につながるものとなり、教師にとっては指導方法の改善・充実につながるものとならなくてはなりません。
- したがって、「道徳科」の評価は、授業改善のPDCAサイクルの中で実施し、具体的な記録の蓄積の中から児童生徒の成長を捉え、よさを伸ばすものとするのが大切です。

## 質の高い多様な指導方法の工夫をする



岡崎市立竜美丘小学校の実践

＜多面的・多角的な考えを持たせるための授業展開の工夫＞

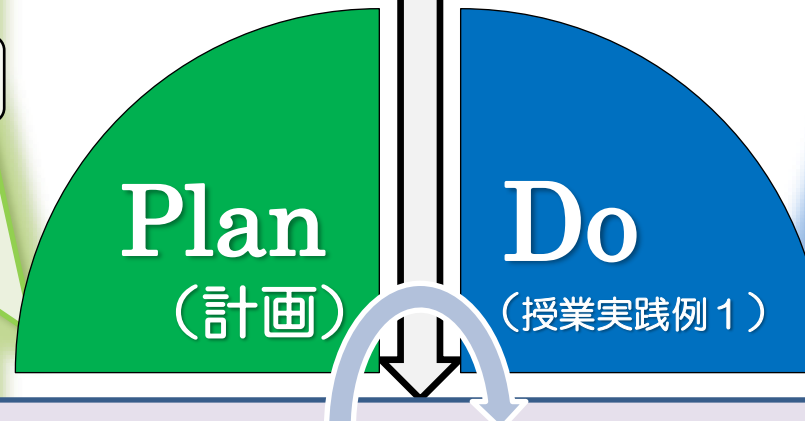
- ◆ 問題解決的な学習や自我関与させる発問、役割演技などを工夫し、主体的な学習を展開しています。
- ◆ 児童の思考の流れが分かる構造的な板書構成を考えました。

\*\*\*\*\*

＜ポイント＞

- 一つの指導の「型」に固執しないで、児童生徒の実態や授業のねらいに応じて、適切な指導方法を工夫し教師も児童生徒とともに考える姿勢を大切にします。
- 明確な意図を持ち、対比的・構造的な板書構成の工夫をします。

## 「道徳科」における授業改善PDCAサイクル



## 教師自身がアクティブ・ラーナーとなる

＜道徳授業のバトンリレー＞

- ◆ 一つの教材を一学級ずつリレー方式で順に授業を行い、授業を行うごとに学年で検討を重ね、質の高い授業を目指しています。
- ◆ 模擬授業や検討会を行い、中心発問、板書、授業展開等について改善を加えました。



扶桑町立扶桑北中学校の実践

\*\*\*\*\*

＜ポイント＞

- 教師同士で互いに授業を参観し合ったり、他の学級でも授業を行ったりして、チームとして授業力の向上に努めます。
- 児童生徒の評価を授業の改善に生かすとともに、児童生徒の理解を深め、よさを捉えます。

Act (改善)  
Check (評価)

Do (授業実践例2)

### 様々な評価方法

#### ★ポートフォリオ評価

児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握する評価

#### ★エピソード評価

児童生徒の学習の記録や記述などを、道徳性を発達させていく過程でのエピソードとして集積し、活用する評価

#### ★パフォーマンス評価

作文やレポート、スピーチや協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握する評価

## 振り返りの場面を設定する



幸田町立北部中学校の実践

＜自らの成長を実感させる振り返りの仕方と評価方法の工夫＞

- ◆ 「振り返りシート」を活用し、授業後の自分を見つめる機会を確保しています。
- ◆ 「教師メモ」や「振り返りシート」を蓄積したポートフォリオ評価を行い、生徒の成長を捉えました

\*\*\*\*\*

＜ポイント＞

- 記述が苦手な児童生徒については、「教師メモ」等を活用し、発言や演技の様子、表情などから児童生徒の成長を捉える工夫をします。
- 評価の質を高めるために、視点や方法、集める資料などについて、学年や学校で共有します。